

The background of the entire page is a grayscale aerial photograph of a coastal industrial and residential area. In the foreground, there's a large industrial complex with several large cylindrical tanks and pipes. A road or railway line runs through the middle ground. In the background, a range of mountains is visible across a body of water.

KYUSHU DESIGN CHARRETTE 2024 REPORT



九州デザインシャレットとは

九州デザインシャレットは、将来まちづくりや建設分野に携わる様々な専門分野の学生・若手技術者を対象に、実際のまちづくりの課題に集中して取り組む機会を提供し、専門家の指導の下で、異分野との共同作業を体験させ、現代の要請に適った人材を育成することを目的とする。

加えて、この体験を通じてその後も切磋琢磨しあえる仲間と出会い、その人的ネットワークが九州、全国に広がっていくことも、これから九州、日本の美しい風景を守り、新たな文化価値を生むための大きな力となるはずである。

また、地元で進められているまちづくりの取り組みに対しての話題提供となることも期待できる。

*シャレットとは：シャレット（charrette）は仏語で「荷馬車」という意味です。仏の大学生が設計課題の提出日に荷馬車に図面を積んで学校に来る様子から、短期間に集中的に行う演習を意味するようになったと言われています。

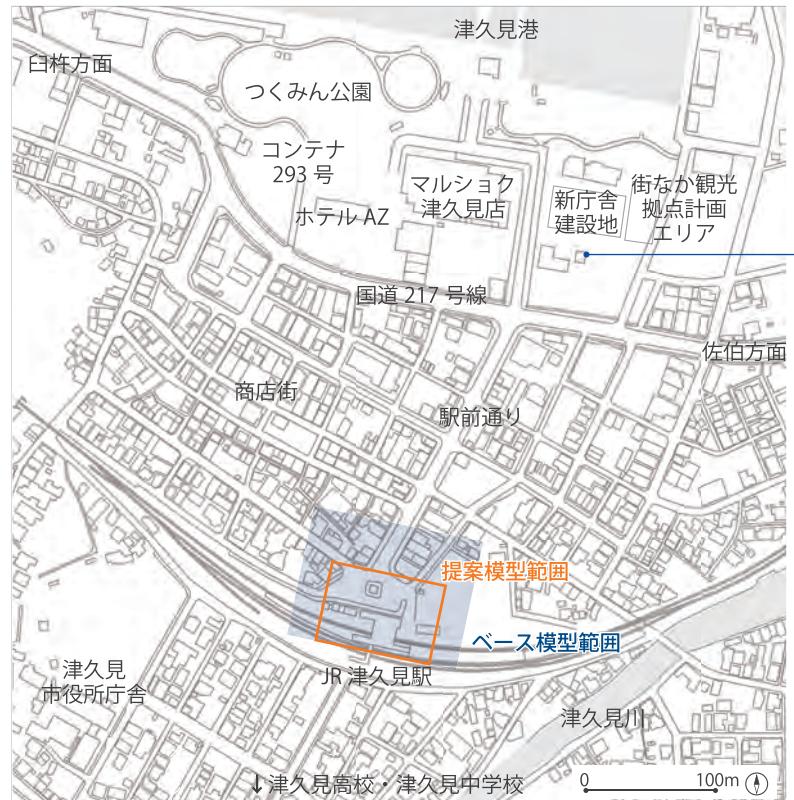
テーマ 多世代の居場所となる駅前広場のデザイン

津久見市は、大分県の南東部に位置する、豊後水道に面した海沿いの都市である。高齢化や中心市街地の空き家・空き地増加といった課題を抱える津久見市では、市中心部にあるJR津久見駅を対象に、地元の高校生と連携した駅自体の魅力を高める取り組みに着手しようとしている。また、駅から約半径1km以内を中心市街地と位置づけ、津久見駅周辺に「まちなかウォーカブル区域」を設定するなど、駅を中心としたまちの再生が目指されている。

以上を踏まえ、九州デザインシャレット2024では、津久見駅の駅前広場を対象エリアとし、駅を利用する地元高校生等の意見も踏まえながら、多世代の居場所となる駅前広場をデザインすることをテーマとした。

対象地と演習課題

本演習では、駅前通りや周辺市街地とのつながりを視野に、旧手小荷物扱室を含め、多世代の居場所となる魅力的な駅前広場のデザイン提案（計画図・1/100模型等の製作）を行った。



対象地について

津久見市は美しいリアス海岸に面した都市であり、ミカン栽培の段々畑や石灰岩地帯の鉱山といった独特な景観も見られる。

激特事業が実施された津久見川は、治水機能の向上とともに魅力ある水辺の創出が図られ、港には市内外から多くの来訪者が集まる「つくみん公園」がある。同公園と隣接する埋立地には、老朽化した市役所庁舎の移転が決定し、JR津久見駅から港側に続く駅前通りを基軸に、周辺市街地やつくみん公園、上記埋立地とのつながりの強化が重要視されている。

現在、津久見駅の魅力を高めようと、地元の高校生と連携しながら駅一階の旧手小荷物扱室のリニューアルを図る取り組みが企画され、さらに駅から約半径1km以内を中心市街地と位置づけ、津久見駅周辺に「まちなかウォーカブル区域」を設定するなど、駅を中心としたまちの再生が目指されている。

指導講師

風景デザイン研究会（主催）



ゲスト講師



プロセス

	8/27 (火)	8/28 (水)	8/29 (木)	8/30 (金)
事前準備		レクチャー（柴田） コンセプトメイキング (グループワーク)	レクチャー（吉村） デザインスタディ 計画図・提案模型検討 (グループワーク)	提案模型・プレゼン準備 (グループワーク)
会場集合	昼 食	昼 食	昼 食	昼 食
ガイダンス（柴田、津久見市） レクチャー（山下、田中尚）	レクチャー（星野）	レクチャー（田中智）		
現地調査 & 結果整理 (講師による解説) (高校生を交えた グループワーク)	コンセプトメイキング デザインスタディ 対象地計画図検討 (グループワーク)	デザインスタディ 提案模型検討 (グループワーク)	講師および 地域の関係者による 講評会	講師によるエスキス
調査結果報告 「空間とアクティビティ」				撤収作業
懇親会	講師によるエスキス	デザインスタディ 提案模型検討 (グループワーク)		懇親会（有志）



2-2. コンセプトメイキング



2-3. エスキス



2-4. コンセプトメイキング



3-1. デザインスタディ



3-2. レクチャー



3-3. デザインスタディ



3-4. エスキス



4-1. プrezent準備



4-2. 最終講評会



4-3. 表彰式



1-1. ガイダンス



1-2. 現地調査

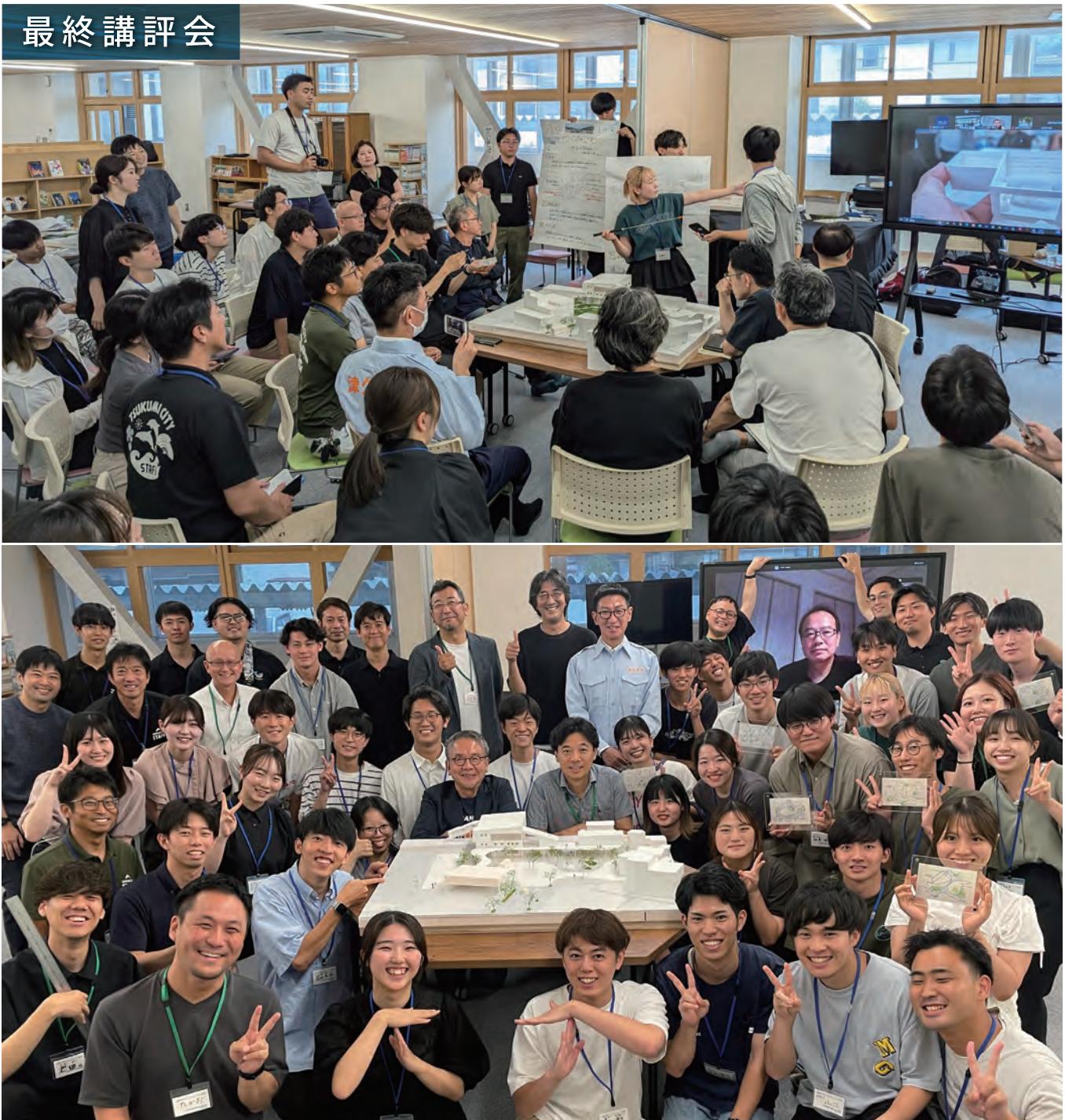


1-3. 現地調査結果整理



2-1 レクチャー

最終講評会



評価の視点

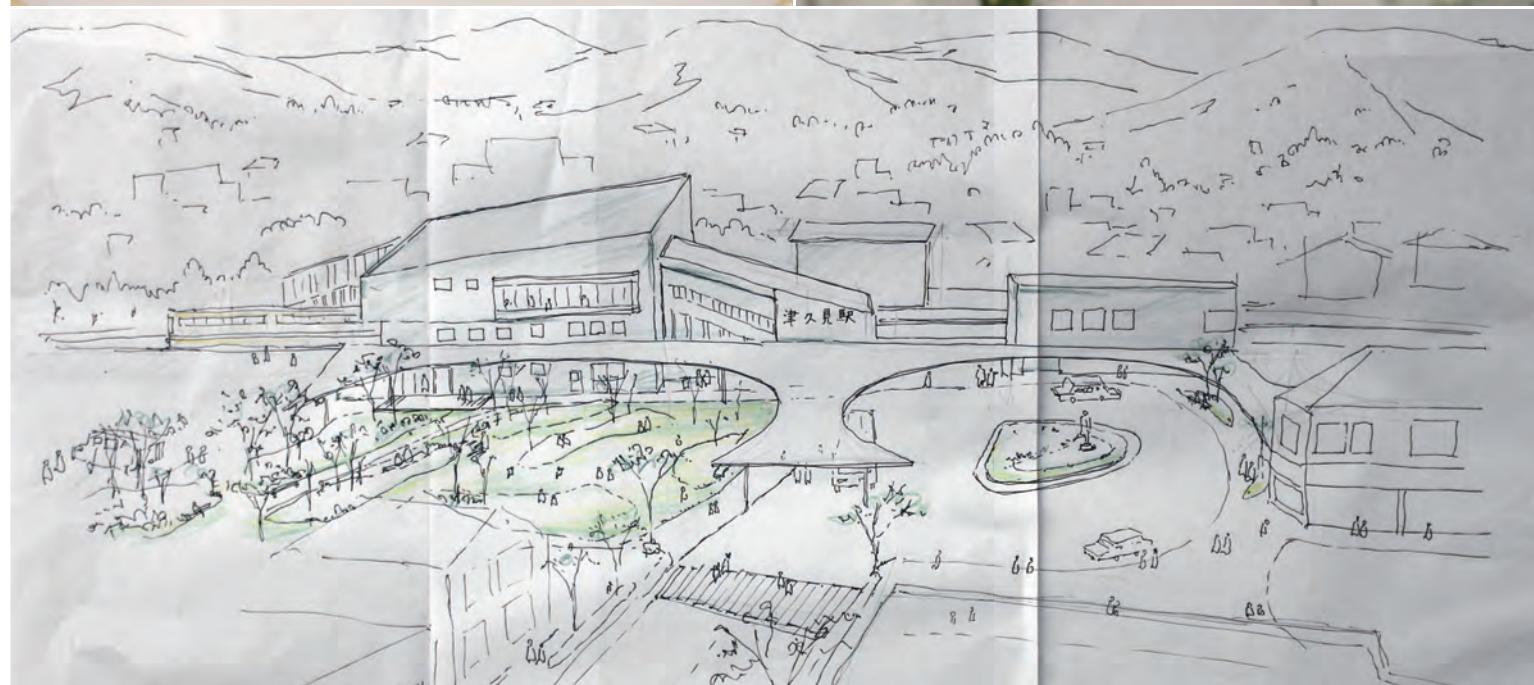
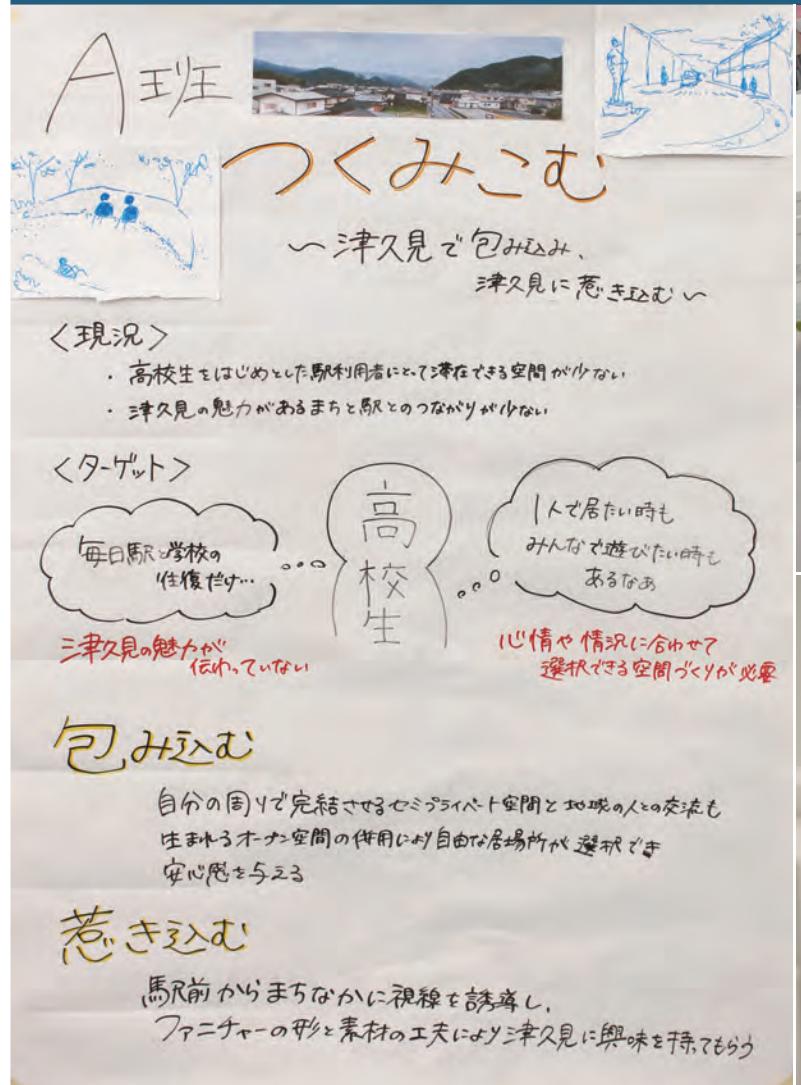
- ◆ 都市における広場のあり方・・・津久見のまちにおける対象広場の役割がよく考察されていて、それに 対応した空間デザインや運営イメージが提案されているか
- ◆ デザインの地域性、魅力・・・津久見のまちにふさわしい魅力的なデザインが提案されているか
- ◆ 提案の新規性、独創性・・・公共空間の現状を打破するような新しい、チャレンジングな提案が されているか
- ◆ プレゼンテーションの質・・・時間内に、わかりやすく、自分たちの提案を伝えることができたか 計画図や模型がわかりやすくつくられているか

Group A つくみこむ

~津久見で包み込み、津久見に惹き込む~

包み込む：自分の周りで完結させる＆地域の人との交流も生まれる
空間の併用による自由な居場所の選択と安心感の創出

惹き込む：駅前からまちなかに視線を誘導し、ファニチャーの形と
素材の工夫により津久見に興味を



長野 太蔵（協同エンジニアリング株式会社）
牧野 彩夏（福岡大学 工学部建築学科 学部2年）
志賀 充喜（九州大学 工学部土木工学科 学部3年）

車谷 綾花（法政大学大学院 景観研究室 修士1年）
永倉 裕翔（熊本大学 景観デザイン研究室 学部4年）
小野寺 淳（信州大学大学院 ランドスケープ・プランニング研究室 修士1年）

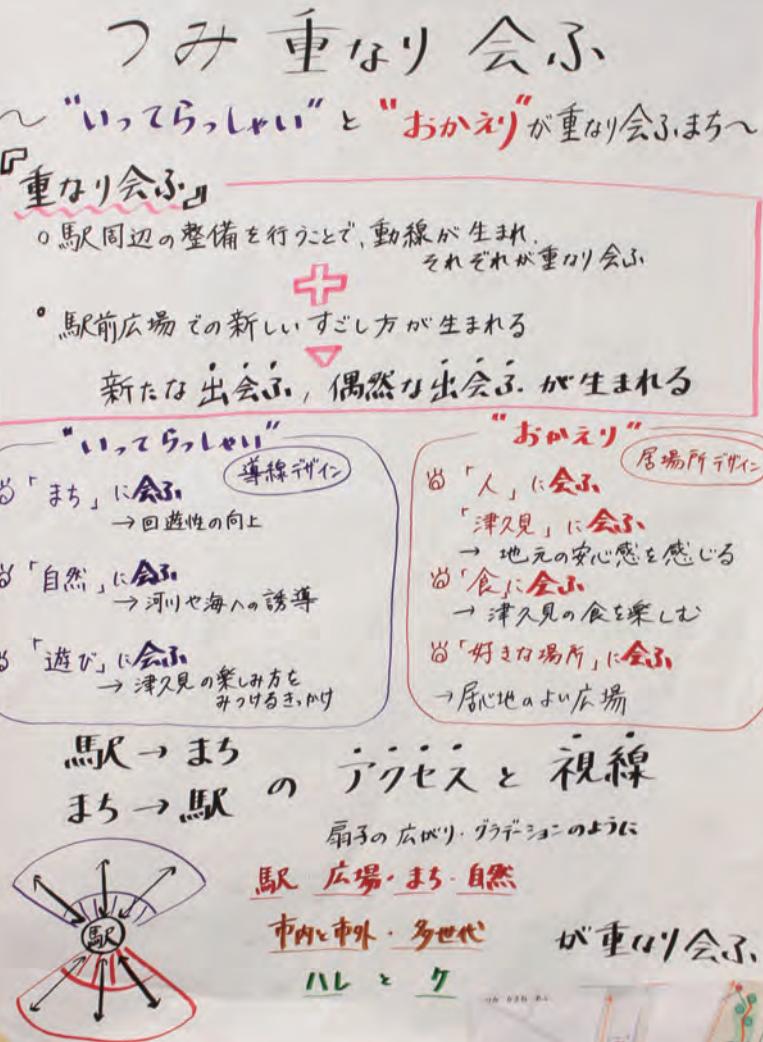
Group B つみ重なり会ふ

~“いってらっしゃい”と“おかえり”が重なり会ふまち~

駅周辺の整備によって動線が生まれ、それぞれが重なり会ふ
+ 駅前広場での新しいすごい方が生まれる
→新たな出会い、偶然な出会いが生まれる



ゲスト講師賞



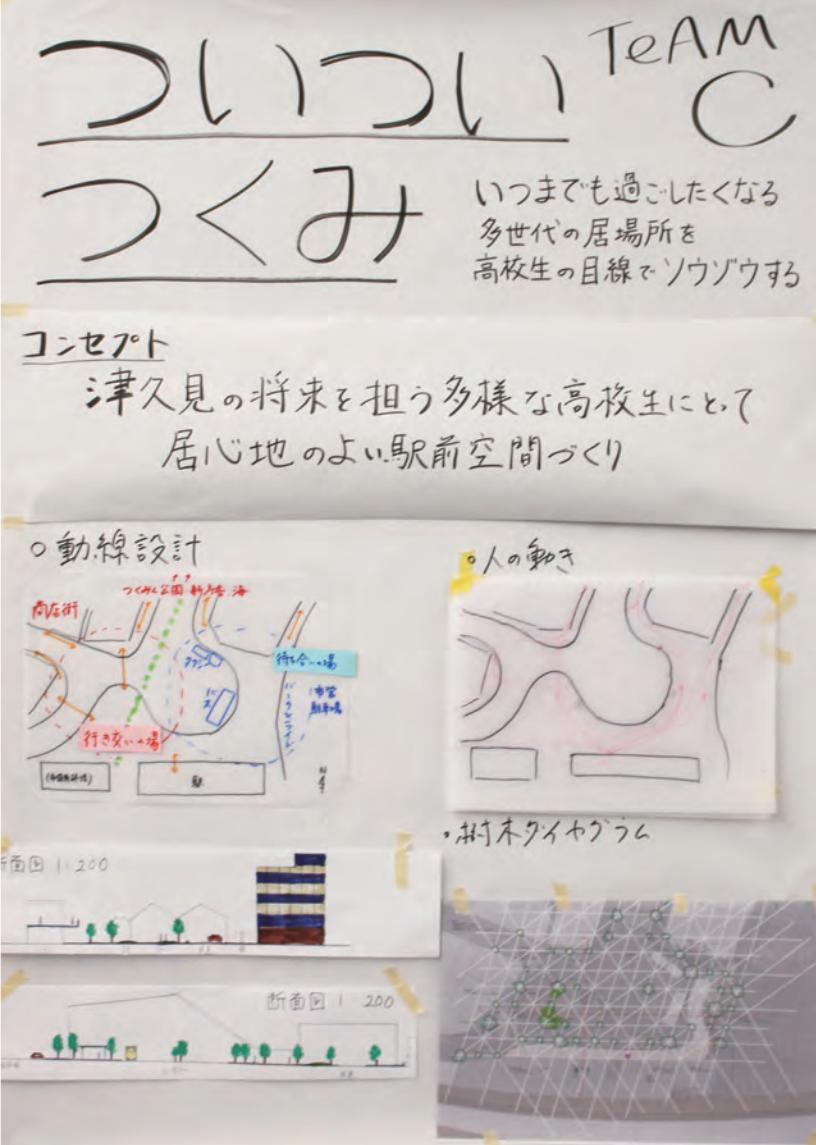
Group C ついついくみ

津久見の将来を担う多様な高校生にとって
居心地のよい駅前空間づくり

いつまでも過ごしたくなる
多世代の居場所を高校生の目線でソウゾウする

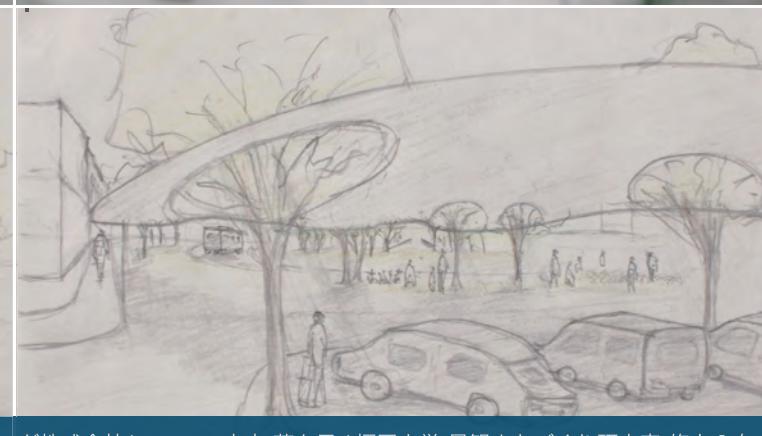


津久見市役所賞



Group D 緑のネットワークが津久見らしさをつくる

- まちの緑を駅前に引き込む
- 駅前広場で緑を受け止め、波及させることで周囲へ繋げる
- まちの自然をつなぎ緑の軸をつくる



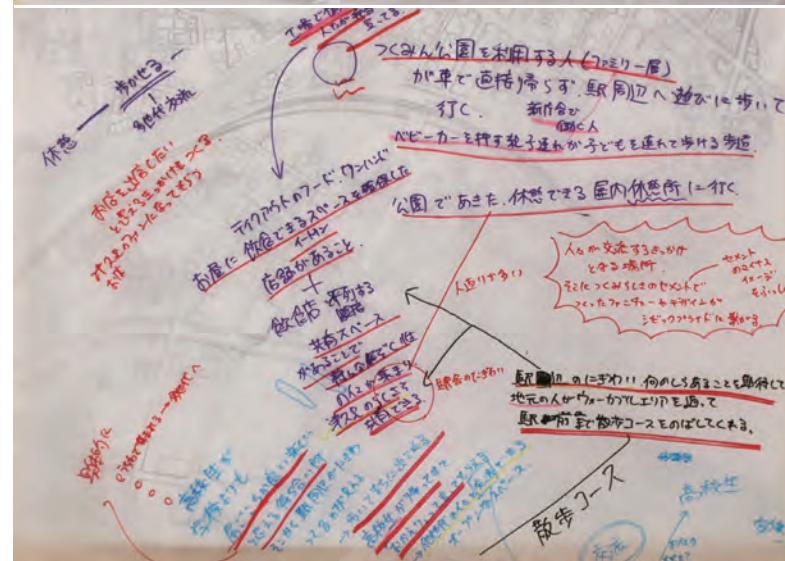
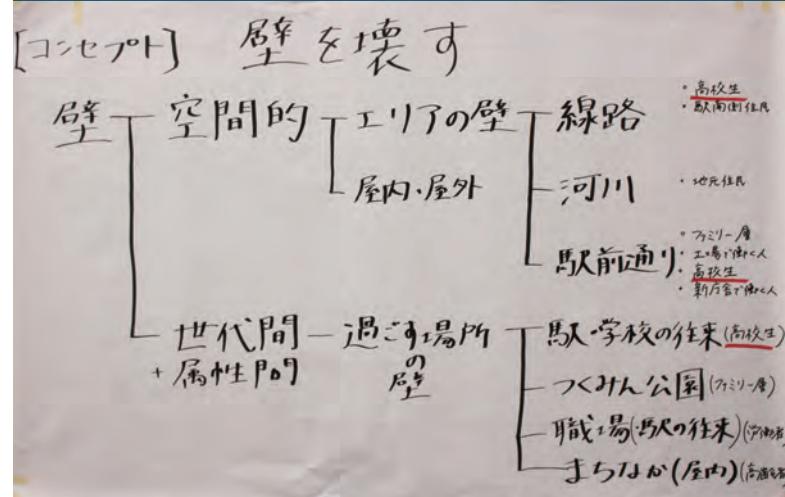
鈴木 ひなた (ジーアンドエスエンジニアリング株式会社)
栗林 大兼 (九州大学 工学部建築学科 学部3年)
桂川 大誉 (東京工業大学 真田研究室 修士2年)

安宅 菜々子 (福岡大学 景観まちづくり研究室 修士1年)
村田 和奏 (九州大学 工学部土木工学科 学部3年)
高橋 翼 (信州大学大学院 小川総一郎研究室 修士1年)

Group E 壁を壊す

空間的（屋内外&各エリア）、世代間 + 属性間（過ごす場所）の壁が壊されることで交流が生まれる

そして多世代の居場所に、幸福度向上、誇りあるまちへ



郷原 一樹 (東京理科大学 創域理工学部社会基盤工学科 学部2年)
木村 亮太 (九州大学 芸術工学部環境設計コース 学部3年)
宮崎 正采 (熊本大学 地域風土計画研究室 修士2年)

福山 太平 (福岡大学 景観まちづくり研究室 修士1年)
宮本 知佳 (中央復建コンサルタンツ株式会社)
實平 茉那 (関西大学 景観研究室 学部4年)

受講生の声

Group A



小野寺 淳 信州大学大学院 総合理工学研究科 ランドスケープ・プランニング研究室 M1

「絵」という自分なりの表現方法をもっと出していい、「絵」はみんなの認識を一致させるものでもあると教えて頂き、グループワークをする中で自分がやるべきことを見つけることができました。「魅せる絵」「伝える絵」の2つの武器をどんどん使って、より良い街を描いていきたいです。シャレット開催に携わってくれた方々、先生方、一緒に切磋琢磨した仲間、300円の仲間、出会ってくれた仲間に感謝します。本当にありがとうございました。



車谷 綾花 法政大学大学院 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻 景観研究室 M1

設計やデザインについて、知識が少ない状態での参加だったので、現地を見る視点や空間をデザインする時に意識することなど、新たな学びが多く勉強になりました。帰ってからまちや広場を見る視点が変わったなど実感しています。また、グループワークの進め方を学ぶこともでき、自分の課題も見つけることができました。自分の意見を正確に共有することの難しさ、周りの意見を尊重しながら1つにまとめていくことの難しさを実感したので今後に生かしていきたいと思います。



志賀 充喜 九州大学 工学部 土木工学科 B3

今回のシャレットは、まちづくりの難しさと楽しさを深く学ぶ濃密な時間でした。グループワークでは、意見を共有し、全員が共通認識を持つことの難しさを実感しました。特に、抽象的な議論が飛び交う中で、絵を使って視覚的に伝えることの重要性を痛感しました。一方で、自分一人では思い浮かばないアイデアが議論の中で生まれたり、地域への愛が芽生え、それが形になる過程を体験し、まちづくりの醍醐味を味わうことができました。



永倉 裕翔 熊本大学 工学部 景観デザイン研究室 B4

初めは、なかなか遠い場所であり、あまり気が乗らないところもありましたし、台風も重なってしんどいと思うこともありましたが、班の皆さんやほかの参加者の方々、講師の方々の協力もあり、最後に作品を完成させたという達成感や、経験がその気持ちを上回るくらい充実したものとなりました。この経験の中で、自身に足りていないもの、逆に自分がもっと伸ばせるところ、参考になるところも見つけることが出来ました。これからの進路でこの経験を役立てたいと思います。



牧野 彩夏 福岡大学 工学部 建築学科 B2

初めてのことばかりで、どのようにしたら上手くいかわからぬことだらけでしたが、その時々で同じグループのメンバーだったり知り合った先輩方だったり先生方だったりに支えられて、多くのことを学ばせていただきました。知識不足で悔しい思いも多々しましたが、それよりも新しいことを知ることができるワクワク感に包まれた四日間でした。この経験をこれから設計に活かす事ができるよう精進いたします。また力をつけてぜひリベンジさせていただきたいと思います！



長野 太蔵 協同エンジニアリング株式会社 技術第一部 道路計画

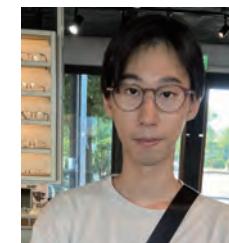
大学では土木を勉強し、デザインについて触れることがなかったため、この機会に新しいものにチャレンジできたのは、とてもいい経験になりました。デザインを考えるときの考え方や、そこに至るまでの過程がすごく新鮮でもあり、難しくもありました。そのため前半の2日間が特に苦戦しました。自分自身なかなかデザインについて思い浮かばず、課題が残る4日間ではありました。他の参加者の考え方の解像度の高さに驚き、より仕事に対してのモチベーションに繋がりました。

Group B



石見 音々子 熊本大学 工学部 土木建築学科 地域風土計画研究室 B4

自分たちが考えたストーリーや想いが形になっていく様子が目に見えてわかり、とても充実した4日間でした。私は普段、形をデザインしたり絵をかいたりする機会は少なく、チームの力になれるのか不安でいっぱいでしたが、まちなかの課題や魅力を整理し、ストーリー性のある提案を行う等、4日間の中で自分の役割をしっかりと見つけ、全うすることができました。なによりシャレットを通して、自分に自信をつけることができました。このシャレットとの出会いに、心から感謝します。



田中 歩人 熊本大学 工学部 土木建築学科 円山研究室 B4

今回のシャレットでは、まちづくりとしてのデザインと空間のデザインの両方で学びがありました。地形や文化、現在や未来の生活風景を読み解くことで、拠点となる場のコンセプトや地域全体とのつながりをデザインできたことは、過去に行ってきたグループワークよりも解像度が高く、本質を捉えた空間デザインの土台となりました。ミクロなデザインも印象や「見る・見られる」の関係を意識して議論ができた経験がとても大きかったです。



辻 玉実 法政大学大学院 都市環境デザイン工学専攻 景観研究室 M1

線を書くことが苦手だったので、不安な気持ちとワクワクを抱きながら参加しました。結果、メンバーや講師陣、スタッフの方含め皆さんすごく温かく、でも熱意を持っている方々と出会うことができ、多くの学びと刺激を得られました。私の班は、建築、土木、まちづくりと似ているようで違う分野の方々だったので、意見が合わないこともありましたが、早めにチームビルディングをし、都度話し合う時間を設けたことで完成まで持っていくことができました。短い時間でしたが、今後も続くような繋がりができるなと思っています。



日隈 貴斗 九州大学 工学部 建築学科 B3

今回はじめて景観や土木、建築、異なる分野の人々を交えて一緒に駅前広場を設計できたこと、様々な視点を知ることができたことが自分の中で一番良かったと思いました。普段考えないような、教わらないようなことを講師の方のレクチャーや津久見市役所の方、津久見の高校生との交流から学べ、実際に設計していく上で大きなヒントになり形になっていくのがうれしかったです。最高のワークショップでした。



相澤 航平 株式会社日本設計 ランドスケープ・都市基盤設計部

学生時代にやり残した九州デザインシャレットへの参加が叶い、とても楽しみにしていました。演習の4日間は、景観や公共空間のデザインを志す学生や社会人に囲まれ、豪華な講師陣の講義・エスキスを受けることができ、毎日が刺激的で学生時代に戻ったような充実した時間でした。チームで見つけた「扇子」のモチーフも最後の最後でデザインに組込み、かわいい模型もできてプレゼン後は達成感でいっぱいでした。参加者の皆様、講師陣・事務局の皆様に心から感謝いたします。



横山 裕希 扇精光コンサルタンツ株式会社 まちづくり事業部 設計調査部

今回のシャレットで本格的な設計演習を初めて経験することができました。高校生と一緒に歩いた現地調査で津久見の特長を捉え、コンセプトをつくり、それをデザインに落とし込んでいくということを4日間で行なうことはなかなか大変でしたが、班員のみなさんのおかげでとても良いものができたと思います。ゲスト講師賞という賞まで頂くことができ、大変嬉しかったです。また講師の方々のレクチャーや他班のアイディアはすべて勉強になることばかりでした。今後は業務において今回学んだことを生かしていきたいと思います。

Group C

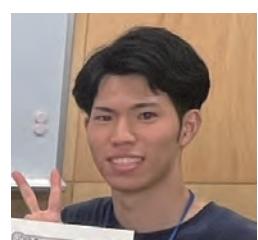
石田 泰都 九州大学 工学部 建築学科 B3

今回は貴重な勉強の機会をいただきありがとうございました。幅広い分野、学年の参加者のみなさんと同じテーマについて議論ができたことが今後の財産になると感じました。市役所の方や学生さんなど実際の利用者の声を聞いて取り組むという学校での設計課題ではできない経験をさせていただいたことに感謝したいと思います。今回の参加を通して自分は建築という分野に将来携わっていきたいと改めて強く感じることができました。津久見の街が今後どう変わっていくのかとても楽しみです。



岩崎 結衣 福岡大学大学院 工学研究科 建設工学専攻 景観まちづくり研究室 M1

C班は他のどの班よりも議論が絶えず、立ち止まることが多いのではないかと思います。しかし、話し合いに時間をかけたからこそ、シーンを大事にするC班らしい作品の完成に繋がったと思い、今では議論の時間も楽しかったと感じています。専門が違うメンバー同士でのグループワークは、自分にはなかった新しい視点や自分の得意不得意を改めて知ることができ、とても良い刺激になりました。充実した4日間を過ごすことができたのはシャレットに関わる皆様の熱い思いのおかげです。



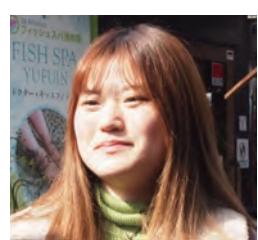
酒見 聖矢 長崎大学 工学部・環境計画研究室 B4

4日間で様々な分野の人と協力して一つの成果物を作り上げることの難しさを学びました。自分のできしたこと、できなかったことを知ることができたのは、大きな成果となりました。また、エスキス時の各班の発表の仕方は、参考になる点が多く今後自分のプレゼンに活かしていきたいと思います。シャレット始まる前は緊張でいっぱいでしたが、たくさんの人と出会い、交流することができてとても良かったです。この出会いを大切にし、色々なことに挑戦していきたいと思います。



豊田 凌生 関西大学 環境都市工学部都市システム工学科 景観研究室 B4

こんなに素敵なシャレットの開催や運営に携わって下さった方々に感謝を申し上げたいです。特にC班のみんなには一緒に切磋琢磨できてよかったですと伝えたいです。この四日間では自分の将来を考える上で、重要なターニングポイントになった気がします。デザインなどの専門的なことだけではなく、チームビルディングや人との関わり方などコミュニケーションの重要性なども学べてよかったです。そして次に参加するときは、自分が教える立場で参加したいという夢もできました。



村田 結花 九州大学 芸術工学部 環境設計コース B3

1つの課題を最初から最後までグループワークで設計するという初めての経験をすることができました。様々な分野を学んでいる人たちと話し合いをしていく中で、今まで自分が持っていた視点からの考え方を沢山知ることができ、大きな刺激を得ました。また、講師陣の素晴らしい講義を受けていく中で設計の仕方や考え方を学ぶことができ、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。4日間で1つのものを設計するという貴重な経験から大きな自信を持つことができました。



平井 聰一郎 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 関東支社 都市政策・デザイン部

津久見にとってどんな風景があるべきか、どのようにその風景を作るのか、全力で考え議論した、人生で一番密度が高い4日間でした。多様な人の日々の暮らしを知り、過ごし方を想像して居場所をデザインすることの面白さと難しさを同時に実感しました。これから都市計画に携わるうえで自分の中で軸にしたいことを見つけられた気がします。社会人になってからこのような経験ができるとは思っていませんでした。この経験を社会に還元できるよう、これからも研鑽を重ねていきたいです。

Group D

安宅 菜々子 福岡大学大学院 工学研究科 建設工学専攻 景観まちづくり研究室 M1

年齢や所属が異なるメンバーと共に、ゆかりのない津久見駅のデザインに取り組んだことで多くの学びが得られ、とても刺激的な4日間となりました。多くの講師の方々からご指導をいただき、「このような見方もあるのか」と気づかされると同時に自分たちが最も表現したいことをどのように表すか、考えを深めることができました。この4日間で空間デザインに対する視野を大いに広げられたと実感しており、今後の研究活動に活かしていきたいと思います。



桂川 大誉 東京工業大学 環境・社会理工学院 真田研究室 M2

KDC2024に参加できたことは自分にとって大きな財産となりました。台風が直撃する中での開催に携わっていただいた津久見市役所の方々、津久見高校生、講師陣、スタッフの皆さんに感謝申し上げます。そして宿を貸していただいた(株)戸高鉱業社には大変お世話になりました。育英会館のおかげでチームのメンバー以外と話せる機会が多くありました。最後に、津久見に集まったシャレットの皆さんのパワーに影響されて4日間走り切れました。またどこかで会った時にはパワーをください。



栗林 大兼 九州大学 工学部 建築学科 B3

訪問経験のない場所で新たな仲間、講師陣だけでなく地元の高校生や市役所の方々と交流しながら4日間で設計課題をやり遂げるという非常に盛り沢山な内容で、学生のうちには出来ないような貴重な経験ができたと思います。また異分野間でのグループワークだったので、建築を専門とする私がどのように振る舞うべきなのかということも講師の方々に親身になって相談に乗って頂きました。設計というものを超えて広い視点で学びのあるワークショップであったと深く感じています。



高橋 翼 信州大学大学院 総合理工学研究科 農学部 ランドスケープ・プランニング・プログラム 小川總一郎研究室 M1

デザインワークショップに参加するのは今回が初めてで、最初はうまく馴染めるか不安でした。ですが、始まるとすぐに現地でのヒアリング、調査、コンセプトメイキングなど目まぐるしい日々に揉まれるうちに、チームメンバーや講師の方々との関係性が出来て、最終日のプレゼンテーションが終わった時、大きな達成感とともに、このメンバーと一緒にいられるのも今日が最後なのかという感情が湧いてきました。それくらい密度の濃い4日間で私の今後の糧になったと確信しています。



村田 和奏 九州大学 工学部 土木工学科 B3

まちづくりに関するだけでなく、将来の自分の在り方や他分野との関係性について試行錯誤し、学ぶことのできた3泊4日でした。特に、景観を現役で学んでいる学生の皆様、社会に出て景観を生業としている皆様との議論、さらに講師陣の皆様によるエスキスでは、同じ課題に対して様々な見方を提供していただき、視野を広げることができました。「正解」のない物事が山ほど存在する世の中で、シャレットで体験したこと、身につけたことが役に立つと確信しています。



鈴木 ひなた ジーアンドエスエンジニアリング株式会社 道路・農業土木部門

普段の業務ではあまり触れる機会のない分野のため、とても新鮮で勉強になる4日間でした。グループワークを通じて、限られた期間でチームでひとつものを作りあげることの難しさ、多方面から物事を捉えることの大切さを改めて学び、実感しました。また、講師の方々の講義やエスキスではもちろん、他の受講生の皆さんからもたくさんの刺激を受けました。ここで得られた貴重な経験を今後の業務にも活かしていきたいと思います。

Group E



木村 亮太 九州大学 芸術工学部 環境設計コース B3

普段学ぶ機会の少ないまちづくりや景観デザインについて、実践的な経験をするために参加しました。講師の先生方は皆さん著名な方で緊張しました。また、自費を叩いて参加していただいていることを聞き、この活動の意義と熱量を感じられて、かっこいい、頑張ろうと思えました。グループの人たちの知識や熱量に圧倒されながらも、自分にできることとできないこと、これから身につけなければならないことを見つめ直す機会となりました。ありがとうございました！



郷原 一樹 東京理科大学 創域理工学部社会基盤工学科 B2

都市工学に興味を持ち土木工学科に足を踏み入れたものの、自分がやりたいことに大学であり触れる機会がなくつまらなさを感じていた私にとって、この四日間はとにかく楽しかったです。このシャレットで、班の仲間と良いデザインについて試行錯誤をしたことと景観デザインについて興味関心を持つ先輩方と交流したことから、自分のなりたい姿が見えてきました。そして、その将来像を実現できるようもっと勉強しなければと気づかされました。今回の自分のパフォーマンスには納得できていないのでまたリベンジさせてください。



實平 葉那 関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 景観研究室 B4

新しい仲間とたくさんの議論ができる場を提供して下さった講師陣の方々に感謝いたします。個人的には4回生の今、参加できたことに意味がありました。たくさんの意見を出し、それがコンセプトとマッチしているのか議論できたことが本当に楽しかったです。一方で、自分にはないペースをかく力を持っている仲間や議論を本軸へ引き戻す力がある仲間があり、羨ましさも芽生え、地元に戻ってやりたいことも増えました。良い仲間とも出会い、全員がまちづくりに真剣で幸せすぎる空間でした。また何らかの形で絶対に関わりたいと思います！



福山 太平 福岡大学大学院 工学研究科 建設工学専攻 景観まちづくり研究室 M1

まちづくりに対して様々な属性の受講者と協力し、競い合った4日間を心から楽しむことができました。そんな中でも自分には多くの武器や視点を受講者の皆さんから刺激として受け取り、今後の成長の糧にしたいと強く思いました。また講師の方々の講義やエスキスで学びながら、即座にアウトプットできる機会というのもとても貴重で有意義な時間でした。そして全国のまちづくりに携わる仲間に出会えたことは今後の大きな財産になるでしょう。皆さん本当にありがとうございました。



宮崎 正采 熊本大学大学院 自然科学教育部 土木建築学専攻 地域デザインコース 地域風土計画研究室 M2

台風が接近し、中止になるかもしれないという不安の中、津久見市、風研の方をはじめとした多くの方々にサポートしていただき、4日間を終えられた事に本当に感謝いたします。また、個人的には空間を目で見える形でデザインする段階のノウハウについて学ぶ機会が少なかったので、レクチャーや実践、周りの参加者の方との意見交換を通して多くの学びを得る事ができました。特に4日間という短期間で集中して提案を行うハードスケジュールが、より自分の成長と周りの皆さんとの良いご縁を頂ける機会になりました。



宮本 知佳 中央復建コンサルタント株式会社 計画系部門 地域整備グループ

一つの対象地を題材に、現状分析からデザインまでを4日間で考えるのはハードでしたが、社会人になってからはじっくりと時間をかけ、手を動かして考える機会が少なかったので、非常に良い経験となりました。また、講師の方々の講義やアドバイスからは、今後の仕事にも役立つ学びを得ることができ、充実した時間となりました。講師の方々や受講生の方々とは、今後成長した姿でお会いできるよう、日々努力したいと思います。

Volunteer staff



山口 拓巳 福岡大学大学院 工学研究科 建設工学専攻 景観まちづくり研究室 M2

受講生の皆さんが課題解決に奔走し、前のめりになっていく姿は、幾多もの緊急手術を経て前傾していく大友宗麟像の模型ながらで、心を擊たれました！昨年に引き続き、支える立場としてこのような熱い場に参加できたことを喜ばしく思います！熱意溢れる講師陣と受講生の皆様、そして沢山ご助力いただいた津久見市役所の皆様、感謝をありがとうございます！



新久保 委 福岡大学大学院 工学研究科 建設工学専攻 景観まちづくり研究室 M2

今年のシャレットは台風で予定外の動きが多く、大変でしたが、先生方や受講生の手伝いをする中で、自分にもとても多くの学びがありました。昨年受講生として参加した際にボランティアスタッフの方々にたくさん助けていただいて、今年はその恩を返せればと思い参加したので、少しでも受講生やシャレットに還元できていればうれしいです。



坂井 文音 福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 景観まちづくり研究室 B4

4日間ありがとうございました。今回ボランティアスタッフとして参加させていただきましたが、多くのことを学び、たくさんの方と関わることができ、とても有意義な経験ができました。今回の経験を活かして、来年は必ず受講者として参加したいと思います。その時はまたよろしくお願いします。



富井 俊 さえら

初日から最終日まで参加できて、すごくよい時間となりました。シャレットにはたくさんのはじめましてがあると思います。参加者、講師陣、開催地と地域の方々、きっとこんな短期設計演習も。そんなたくさんのはじめましてを、大切にしたいという想いがシャレットには詰まっていました。こんな素敵な場が、毎年生まれていることは本当に有り難く、みんなでつくり上げた津久見シャレットの一人となれて嬉しかったです。これからどこかで会っても会わなくても、こんな人達がいまもどこかにいるんだなと思ったら、けっこう元気です。どこかでお会いしたそのときは、どうぞよろしくお願ひいたします。



原田 麻里 福岡大学 景観まちづくり研究室／秘書

2018年から事務局として参加していますが、受講生の皆さんとお会いできるのがいつも楽しみで、今年も30名全員とお会いできて嬉しかったです。台風の影響で開催自体できるのか、運営側の判断も大変でしたが、津久見市役所の皆さんとの多大なるご協力により、会場変更なども含め、スムーズに開催できること感謝しております。そんな中、受講生の皆さん生き生きと楽しそうに、そして真剣に演習に向き合っている姿には胸を打たれました！ぜひまた、KDC2024メンバーの皆さんと色々な場所でお会いできますように！



主 催:風景デザイン研究会
info@fukei-design.jp
共 催:津久見市役所
発 行:2024年12月
問合せ:高尾 忠志
(一社)地域力創造デザインセンター
takaotadashi@icloud.com

九州デザインシャレット2024報告書